

(別紙)

日本バイオアッセイ研究センターにおける酸化プロピレンのラットを用いた吸入による反復投与毒性・生殖発生毒性併合試験結果の概要

1 方法

(1) 対象動物

Crj:CD(SD)IGS ラット (8週齢) の雄雌各群 10 匹

(2) 投与方法

被験物質投与群 4 群及び対照群の 5 群構成とした。投与濃度は 125ppm、250ppm、500ppm、1,000ppm とし、酸化プロピレンの全身ばく露を行った。

(3) 投与期間

投与は酸化プロピレンを含む空気を各濃度で 1 日 6 時間、雄には交配前 2 週間、交配期間 2 週間及び交配期間終了後 2 週間の計 6 週間 (42 日間)、雌には交配前 2 週間、交配期間 (最長 2 週間) 及び妊娠 19 日までの計 35~39 日間連続して全身ばく露することにより行った。

なお、試験法は OECD テストガイドライン (422) に準拠した。

2 結果の概要

- (1) 反復投与毒性については、1,000ppm 投与群の雌雄に死亡、後肢の歩行失調が、雄に精巣の精原細胞の壊死及び精嚢と前立腺重量の低下が認められた。500ppm 以上の投与群の雌雄に体重増加の抑制、摂餌量の減少、鼻腔から肺にかけての広範囲な炎症性変化がみられた。鼻腔の変化 (嗅上皮の萎縮) は雄の 250ppm 投与群まで認められた。
- (2) 生殖発生毒性については、1,000ppm 投与群の雄に精子数の減少及び精子運動能の低下が、雌に交配前投与期間中の発情周期の乱れ、受胎した胚・胎児の死亡が認められた。